



令和4年3月9(水)
縄瀬 保育園
池之上 俊江
NO. 21

卒園おめでとう。

天気にも恵まれ、無事8名の卒園式を行うことができました。短い時間ではありましたが、一人ひとりにゆっくりと向き合い、成長を喜び合うことができました。式の中で、卒園児と3つの約束をしました。その中で、皆さんは小学校へ行って自分自身が困った時はどうしますか?と話をしました。5組との食事の中で、小学校への期待反面、「勉強が分からなかったらどうしよう。」「急にトイレに行きたくなったら・・・」「忘れ物したら・・・」と口々に話し、子どもなりに不安も多い様です。自分が困った時は、勇気をもって「教えて下さい」「貸してください」と言っているんです。それを言葉にできる勇気が持てる人になって下さい。少しずつ自立が求められる中で、諦めず努力する事も大切です。しかし、出来ない事、どうしようもない事は誰にだってあります。そんな時、抱え込むのではなく助けを求める事ができる様になってほしいです。

卒園児保護者代表挨拶の中で、「泥んこの服を洗った事もいい思い出です。」とありがたいお言葉を頂きました。子ども時代に経験してほしい遊びを追及し、環境作りに励んでまいりました。遊びの中で、人間関係の基礎を経験し、年齢が上げるにつれ友だちと協力し、役割分担ができるようになっていきます。子ども達が求める遊び「楽しい遊び=汚れる」は、できる限りさせてあげたいと思っています。

この保育が展開できるのは、保護者の皆様の温かい御理解、御協力あってです。今後も自信をもって保育を展開していきたいと強く感じました。本当にありがとうございました。

自分のタイミング

ツリーハウスが完成して約一カ月半。5組を中心に日々挑戦する子ども達ですが、ツリーハウスの出来上がりを誰よりも楽しみ待っていた4歳児の男の子がいました。以前、おおむたこども園のツリーハウスを見て覚えていたようで、工事が始まると「いつ完成するかな?」とツリーハウスの絵本を読んで期待を膨らませていました。ところが、そこまで満足していたのか完成するとツリーハウスを気にする事なく、制作やサーキットで遊ぶ毎日・・・先輩の5組が次々と登っていく姿は見えていた様子でしたが・・・それが数日続き、ついに挑戦する彼の姿がありました。待っていたかのように繰り返し手を伸ばし、掌の痛みをこらえて木の幹に足を絡めて上に上がります。彼の頑張りを見ていた5組の友だちも下からアドバイスしてくれます。そして、ようやく登りきった彼の顔は達成感に溢れ安堵の表情も見え「凄いなあ〜。綺麗な景色」と感動の言葉がありました。完成直後の挑戦ではなく、友だちの姿から先に学んでいた観察力に驚きました。子どもの世界にも、挑戦するタイミングがあります。それが自己決定できる環境だからこそ、短期間でできる様になったり、喜びも大きいのでしょう。子ども達の力を信じ、共に頑張り、喜び合える子ども主体の保育を進めていきます。

ルールを守って・・・

以前、5組を中心にサーキットの整備をしました。コースの中にも凸凹を作り挑戦するコーナー、平らなスピードを出せるコースと考えながら作り上げました。キックバイクを楽しむサーキットは乗り物専用の場所です。整備が整い、一方通行のルールが定着してきたのでキックバイク乗車の運転免許取得の試験をしました。いくつかの質問に答えられたら見事免許取得となりました。

サーキットは道路と同じです。もし土手登りをしたい友だちが横断する時は、歩行者を優先しなければなりません。事故を起こせばバイクを運転していた人の責任となります。免許の管理も子ども自身でします。免許を無くせば無免許運転となり、バイクはお休みとなります。遊びの環境は社会の模倣です。ルールがあるからこそ、お互いを思いやり遊びが成り立ちます。社会の基本を身につけながら遊びを展開してほしいです。

